
凄い狐になった一般人

ギルガメッシュ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

凄い狐になった一般人

【Nコード】

N3755BA

【作者名】

ギルガメッシュ

【あらすじ】

ある日俺は死んでしまいそれが神のミスだと知る。そして「願いを叶えてリリカルなのはの世界に転生させてやろう」と言われた。そして願いを言い転生した。だったのだが願った願いは捻じ曲がって叶い姿は何故か人間ではなかった。今一つだけ言わせてくれ。どうしてこうなった。

作者は初心者です。

某狐の小説を読み書いてみたいと思いました。

この作品は処女作&駄文ですしかも転生&チート（笑）です。
それと更新速度は亀です。
それでも良い方をご覧ください。

転生の日（前書き）

はじめましてギルガメッシュです。

かなり読みにくく面白くないかもしれませんが、温かい目で見てください。

感想にここを変えたほうがいいなどの事を書いてくれるとうれしいです。

転生の日

俺の名前は：まあそれは置いて今俺の現状を報告したいと思う。
前後上下左右・白

何故こんな事をしているかと言うと絶賛現実逃避中だからなのだ。
とりあえず前で土下座している女性？に声をかけよう。

「何故土g「ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
はい？」

なぜかひたすらずっと謝っているのだ

「とりあえず落ち着いてください」

「わかりました」

顔は二十代の女性だ。

ただ違うのは羽が生えていることだ。
最近の女性は羽が生えているのか？

「とりあえずあなたは誰ですか」

「私は神です」

「モンスターエンジンの？」

「違います本物です。そして懐かしいネタですね」

「神様？へえー。だったら何で俺の前に？」

「何故驚かないのですか？」

「驚いてるよ。顔に出ないだけだ」

「質問に対しての答えはあなたが死んだからです」

「はい？」

「私のミスで死んでしまったので転生させるために呼んだのです」

「はいはいテンプレテンプレ。ところで能力くれんの？」

「はい。一つだけそれとなのはの世界にいつでももらいます。」

白い魔王の世界か

「何で一つだけ？」

「私の力では限界です」

「しょうがないアーチャーのステータス・能力をくれ」

「全部は無理なので何か一つだけになりますがいいますか？」

「しょうがない。いいよ。」

「ありがとうございます。じゃあ逝ってらっしゃい」

「おいお前漢字が違うだろ」

「それは無視してつと……あ……間違えた」

転生の日（後書き）

一回目から飛ばしてしまいました

終わりまでかけないかもしれませんが温かい目でご覧ください。

襲来の狸娘（前書き）

二日連続登校

こんなスピードで大丈夫か？

大丈夫じゃない。問題だ。

早くもネタつきかけもつと考えるとくんだった。

襲来の狸娘

やあ。皆のアイドル生前の名前が山田太郎だった尾裂狐^{オサキ}だよ。♪
キモかったかい？ごめんね。文句は作者に言っただけえー。

名前が何故そうなったかと言うと作者に聞いてくんろ

（メタな発言するな）

なんか電波が飛んできたけどそれは無視しよう。

今、俺は困っていた。何故かと言うと転生の特典があっただろそれがアーチャーに関連するものだったろそこで神様は「どれか一つになる」と言っていたその一つが戦闘とか関係のないアーチャーの家庭的スキルだったしかも置いてあった紙に「特訓するとアーチャー以上の料理の腕前になってしまふよ♪」そしてもう一枚の紙には「すぐに死んでしまふそうだから八雲 藍の容姿と性別以外同じにしたし。ついでに身体能力とかマックスにしといたから許してちょ」別にいいがキャラが変わりすぎではないだろうか？まだあった「仕事で色々あるのよ色々」大変そうだなて言うか紙と会話してたし。何でやねん。

もう一枚あった「神様パワーよ♪神様パワー」そんなのがあるのなら能力くれもう一枚そして最後の紙だ。「それとこれは別♪」今なら言える。衛宮士郎の言葉が言える

「なんでさあー」

「なにがやねん」

「何時から見えた」

「やあ。の時からやで」

「早」

原作キャラにあってもうたあー

しかもなんで地の文も読んでんの？

「顔に出てるで」

「なん…だと？」

拝啓お母様お父様お元気ですか？僕は死んだけど元気です。

色々あって転生しましたけど僕の転生生活は前途多難なようです

襲来の狸娘（後書き）

何とかかけました

今回のネタがつきましたたどうしようかな。

こんな駄文ですけどこれからもよろしくお願いします。

人外魔境の日（前書き）

やばいよやばいよ。

PV2000超えてたよこんな駄文を読んでもくれる心広き人のおかげでこれからも頑張っていけそうだ。

では第三話「人外魔境の日」です。

人外魔境の日

・前回のあらすじ

転生したよ

←

能力しょぼいよ

←

原作キャラアカウント

←

今ここ

「ところであんた誰やねん。その尻尾何？本物？」

「本物アルヨ」

「何故に偽中国人なん？」

「それはな…」

「そ…それは？」

「ノリだ」

「なんでやねん。さっきの間何やねん。」

「だからノリだ」

「まあええわ。ところで名前なんて言うん？」

「尾裂狐と申す者ナリ」

「なんでコロ助なん？ まあええ。私の名前は八神 はやてひらがなではやてや」

「ああ。新世界の神ですか」

「ちやう！それは夜神 月や。」

「ああ。借金執事か。」

「ちやう！それは綾崎ハヤテや。だから八神 はやてやいうてるやろ。漢数字の八に神様の神にひらがなではやて！」

「知ってる」

「知ってるんやったら何故そう呼ばへんの？」

「からかうと面白いからだ」

「しばらくで」

「しばいてから言うな」

「まあいいわ。あんた気に入ったから家にきいな」

「そうか。じゃあ遠慮なく」

「さて。ちよつとぐらい遠慮しいや。」

「お前が言ったんだろ」

「まあそうやけど。まあええわ。ほないこか。」

まあ色々あって八神　はやての家に到着

「ほな家の中にはいろか。」

「ただいま」

「ほはへりははへ（おかえりはやて）」

「ただいまヴィータ。また物食べながら喋って」

「ところで誰？そこの狐みたいな奴」

「さっき知り合った尾裂狐って言う人？や」

「？とは何だ？とは」

「あんた人間川からへんもん」

「多分妖怪だ」

「そうか…え？本当にほんもん？はじめてみたわ妖怪なんて。」

「そうです」

「まあええ。あっちにリビングあるから椅子に座っというて」

「了解した」

何故妖怪？なのに驚かないのだろうか？

まあいい。後で聞くとするか。

何だか口調が変わってきてるな。固い口調になってきてるし直しておかなければ。

人外魔境の日（後書き）

三話目書き終えました。

良かった。

三日連続で書けた。

これは奇跡です。

明日雨が降るかも。

最後まで見ていただいてありがとうございました。

主人公Fate的ステータスの日（前書き）

前書き　今回は「主人公Fate的ステータス紹介の日」です。

本編が進みませんがそれでもいい人はご覧ください。

主人公Fate的ステータスの日

尾裂狐

クラス…ゴースト

真名…尾裂狐 性別…男性 身長・体重…167? 57?

属性…混沌

特技…漫画・アニメ鑑賞、家事全般 好き…家事全般

苦手…アスパラ 天敵…シグナム、なのは、フェイト

■クラススキル

妖怪の直感…B

相手の行動先読み。簡単に言う तोリアル「あたらなければどうということはない」ができる。

（だが尾裂狐は元人間だったのでランクは低い。元から妖怪だったらランクはEX）

■保有スキル

餌付け…EX

どんな動物でも魔法的生命体でも人外でも自分の作った料理を食べさせると友達もしくは下僕にできる。

（主人公は心優しい（笑）ので下僕にはしません。）

エミヤシロウの料理技術…A

料理がうまくなる頑張れば昇華する。

（現状況ではもうすでに勝っている。）

料理・料理の食材に対しての心眼（真）…EX

修行・鍛錬において養われた料理を美味しくにつくるための洞察力。

アタイったらさいきょーね…EX
 身体的には強いのだが精神・頭脳がともなわない。
 まだチルノよりはまし。

ステータス

筋力…EX

耐久…EX

敏捷…EX

妖力・

魔力…EX

幸運…E

宝具…EX++

宝具

名称

ランク

種別

レンジ

最大補

足

さいきょーのフライパン

EX++

対人宝具

??

??

さいきょーの包丁

EX++

対人宝具

??

??

さいきょーのまな板

A

対人宝具

??

??

主人公Fate的ステータスの日（後書き）

改めてみるとチートですね（笑）

これは主人公として強すぎるんでしょうか？どうでしょう？。

基本ほのぼのでいくんでよろしくお願いします。

ついでに感想もくれたら作者超頑張っちゃう。

終わりです

マガジソさんの感想でこの小説は気持ち悪いし面白くないようなのでこの小説を終了します。

見てくれた方はありがとうございました。

以降文字稼ぎ

yepporhuvghbhbhbribhfh8hg9
r88rrjhfl ohdvfkvdjp irbhovryc
icujhbvuivhuvdgvdi jvuihv uefyu-
w0cmiwnmuyuiygfrw0ifkjgehfifyh
vfpihviovivohvp9qkj qwf hjwfoou
jvdhvuisv hvihvuvfdhvuhvidui vi
rhrurgu9ibhbjo i ubhbuhbfhgsfo
ufopfhpi osfffu jJJJJjhjh hvvgck
kckxxjcikchcvcn gpkcxoasvokXh
asdddsvv[o iugk][okgo][i@oup::d c
ov.jh gvukgf uovoufvgrhufhgideu
yvf igvugf; uesfgf ehreo jehi8hefr
ihrihefih efiefhefijfeiesjhfdoe
wsjds lkcxcncm',cnvcmjfcgffde/wdl
kてしらていれたいでたいでいてれよいはのはいみはにくは
のみら間hvc khdfkfs hjh fdbdkdfjfg h d
efjefv bhj f dshdj f d h e f j s d f h f d s n f
dsvlj idzf ndf i h dshju gkdhbhudhj
bkdsfio hfnkfdh ifu ifsky7fvhbkvf
huvflh jucdo ifds m n f d d 7 t i f d s d s y g
iaddsf fdvdvhudvvds f a f d f e f e r u h f
dehjbvd sjhlkcdbdv hjvhbjkvdb

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3755ba/>

凄い狐になった一般人

2012年1月13日16時45分発行